



文教のまち

西原町の観光とまちづくり

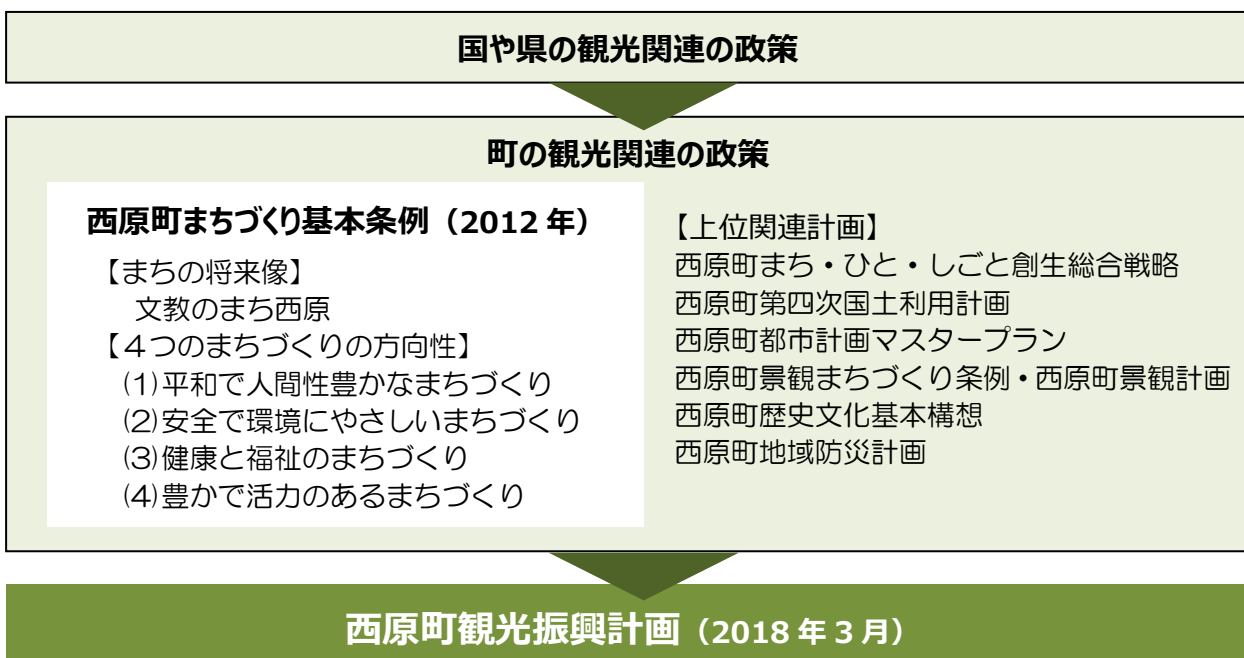
西原町観光振興計画 2018-2027

2018(平成30)年3月 西原町

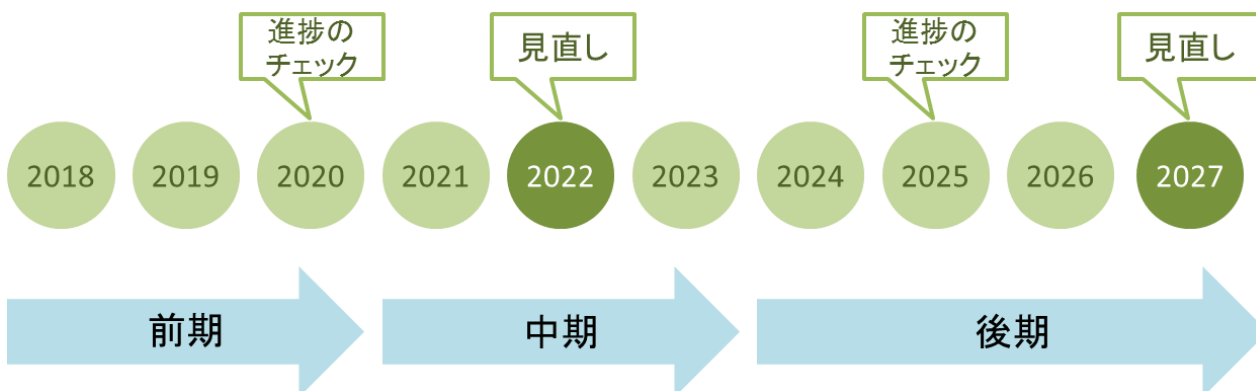


1. はじめに

計画的な観光振興に向け、国・県の政策等を踏まえ、「観光振興計画」を策定します。



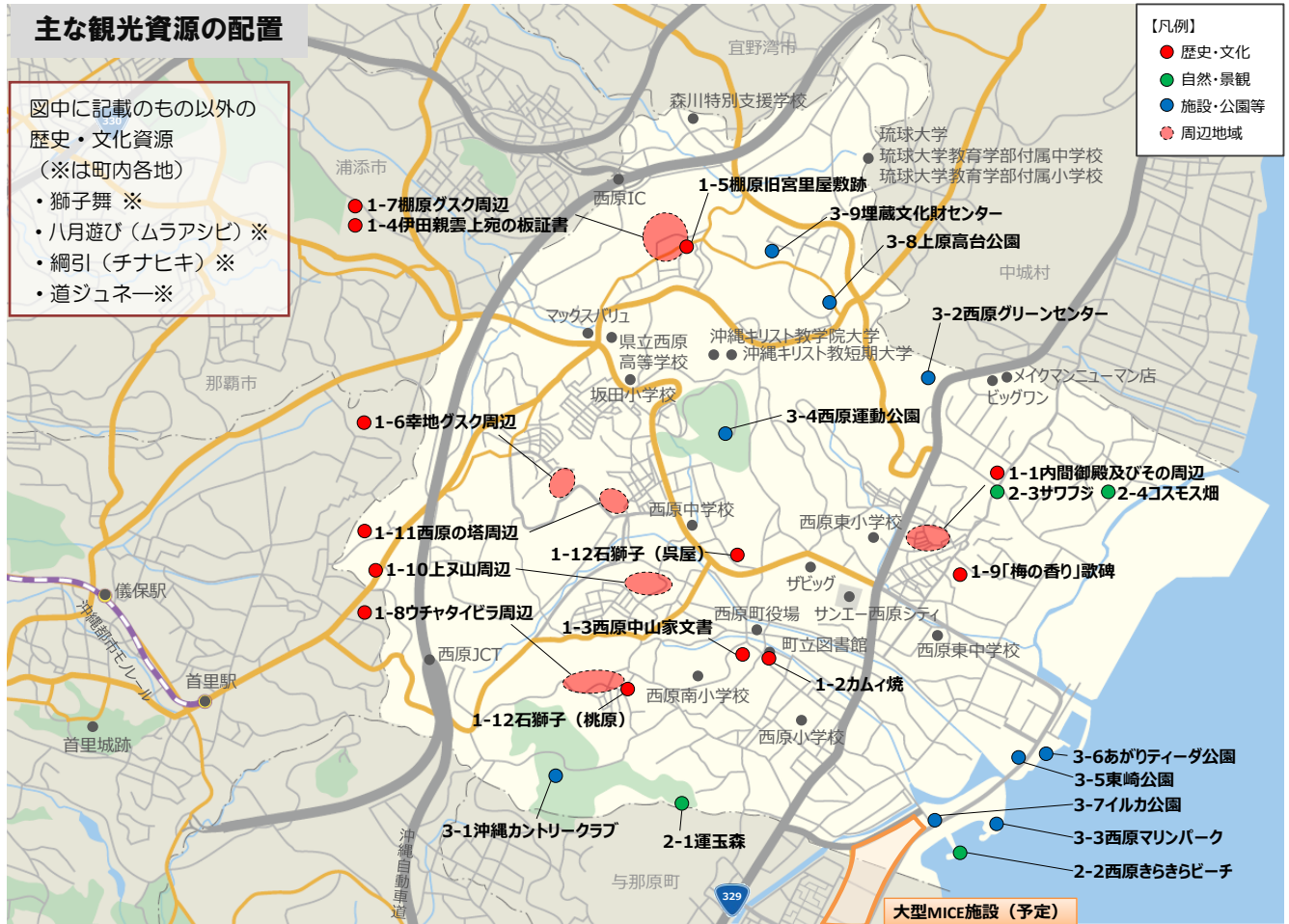
計画期間は2018～2027年度の10年間。3期に分けて観光振興を進めます。





2 西原町の観光の現状と課題

観光振興にあたっては、既存の観光資源を生かして取組を行います。



■観光プログラム・アクティビティ等

マリンレジャー (主体：観光関連事業者)
歴史・文化 (主体：ニシバル歴史の会、西原町文化協会等)
工場見学 (主体：酒造場、食品工場等)
パークゴルフ (主体：西原町)

■イベント・体験

西原町の産業まつり (主催：西原町の産業まつり実行委員会)
西原まつり (主催：西原まつり実行委員会)
平和音楽祭 (主催：西原町)
さわふじ青年エイサーまつり (主催：さわふじ青年エイサーまつり実行委員会)
梅の香りうた遊び大会 (主催：「梅の香り」歌碑建立記念事業委員会・小那覇自治会)
創作演劇 さわりんと連玉義留 (主催：NS ² BP)

■特産品・食

シマナー（カラシナ）
黒糖アガラサー
古酒ケーキ
塩せんべい
泡盛
もろみ酢
琉球梅酒
さわりん商品
ソデイカ
ニトベギクソバ

町内ではすでに観光に関連する多くの取組が行われています。

①NS²BP プロジェクト

西原町の活力ある農業と地域づくりを通じて、郷土愛を育みながら未来対応型リーダー人材育成を目的として、町内の関係者と連携しながら、観光振興やまちづくりに関わる多様な活動が行われています。



▲産業まつりにておにぎりの販売



▲創作演劇さわりん と 運玉義留

②大学との観光・まちづくりにおける連携

琉球大学・沖縄キリスト教学院大学との包括連携協力の協定締結により、特産品を活用した商品等の新規開発や大型 MICE 施設に関連する人材育成、生涯学習の推進等に取り組まれています。



▲琉球大学



▲沖縄キリスト教学院大学

③東海岸地域サンライズ推進協議会の動き

西原町、与那原町、中城村、北中城村との4町村で協議会を結成し、大型 MICE 施設や周辺整備も含めた一体的なまちづくりを進めており、広域周遊観光の促進など連携に向けて取り組まれています。



▲MICE 整備の促進要請（沖縄経済新聞 HP より）

④農水産物流通・加工・観光拠点施設整備

2020年の完成を目指し、農業・観光振興を目的として、農産物の流通対策としての6次産業化を進め、施設内の観光案内所の設置に向けた取組が行われています。



▲農水産物流通・加工・観光拠点施設のイメージ

⑤大型 MICE 施設・交通インフラの整備

大型 MICE 施設の建設に向けた取組、及び慢性的な交通渋滞の解消と利便性の高い交通ネットワーク構築に向けた幸地 IC やモノレールの延伸の整備等が進められています。



▲大型 MICE 施設（左）とてだこ浦西駅周辺（右）の完成イメージ（沖縄県 HP より）

住民や事業者等から観光振興に対する多くの期待やご意見が寄せられました。

西原町の暮らしやすさを守りたい！



- 住民の多くが町の暮らしやすさを高く評価。
- 今後の観光客増加による影響、現在の快適な生活環境の保全が重視されている。

歴史・文化を活用し継承したい！



- 「歴史・文化資産」が地域資源として認識されている。
- 史跡や伝統芸能、伝承など、様々な地域の歴史・文化について愛着が持たれている。

NS²BP や大学との連携強化を期待！



- NS²BP や琉球大学、沖縄キリスト教学院大学などが「文教のまち」を象徴する存在。
- 高校生の発想・活力、大学のスキル・専門性を有効活用。

大型 MICE による波及効果を期待！



- 大型 MICE の整備と周辺のみちづくりによる経済的な発展が期待されている。
- 受入プログラムや体制の構築への関心も高まっている。

西原町の現状を踏まえて、今後の観光振興における取組課題を整理しました。

現状

- ・良好な住環境や、緑豊かな風景のある「住んで良し」の町
- ・大型 MICE 施設の整備等の著しい環境変化が想定される

- ・「文教のまち」の象徴としての NS²BP や町内2大学
- ・既に様々な地域活動や大学プログラムが進行

- ・地域のアイデンティティとしての文化遺産や伝統芸能・行事
- ・高台からの景観やウォーターフロント等の多様な地域資源

- ・各種施設・インフラの整備（大型 MICE 施設、インターチェンジ、ゆいレール新駅等）
- ・農水産物流通・加工・観光拠点（6次産業）の整備
- ・多くの工場等が立地

- ・観光地や交流の場としての西原町の知名度は低い
- ・西原町におけるブランドが形成されていない

今後の取組課題

課題1 快適で暮らしやすいまちの持続

施設整備や交流人口の増加による環境変化のなかでも、地域の価値である良好な生活環境を守り、持続することが必要。

課題2 NS²BP・大学と地域との連携促進

今後の交流機会の増大を見据え、更なる観光コンテンツの充実に向けた NS²BP・大学と地域との連携強化が必要。

課題3 地域資源を活かした観光コンテンツの創出

来訪者に西原町の魅力を感じてもらうため、地域資源を「観光コンテンツ」として繋ぎ合わせ、磨き上げていくことが必要。

課題4 観光振興を通じた地域産業の活性化

これまで培ってきた地域産業の技術や商品・サービスを観光振興に有効に活用することで、地域産業全体の活性化が必要。

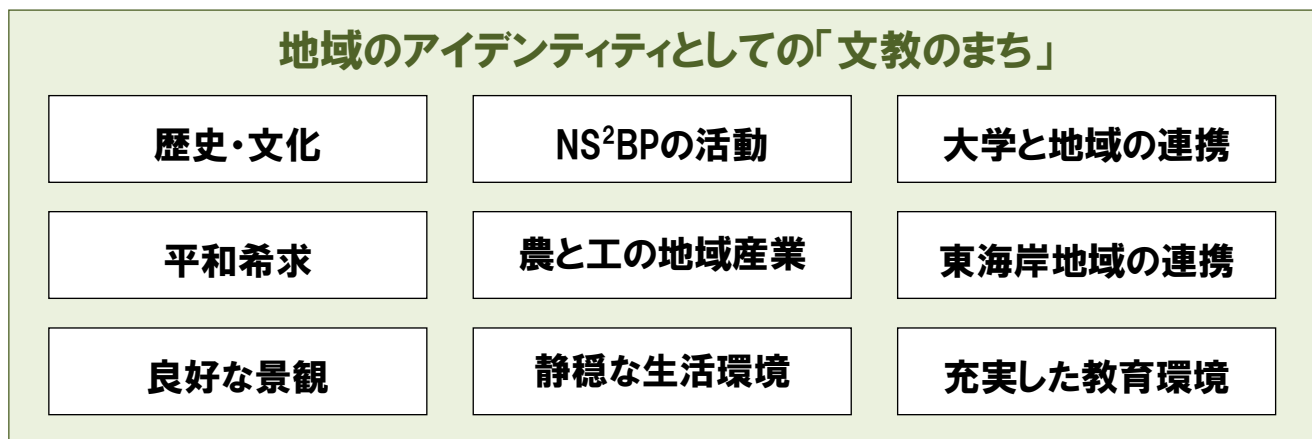
課題5 西原町のブランドの形成と知名度向上

既存の地域資源や取組などによる西原ブランドの形成と情報発信を行い、観光・交流面での知名度向上を図ることが必要。

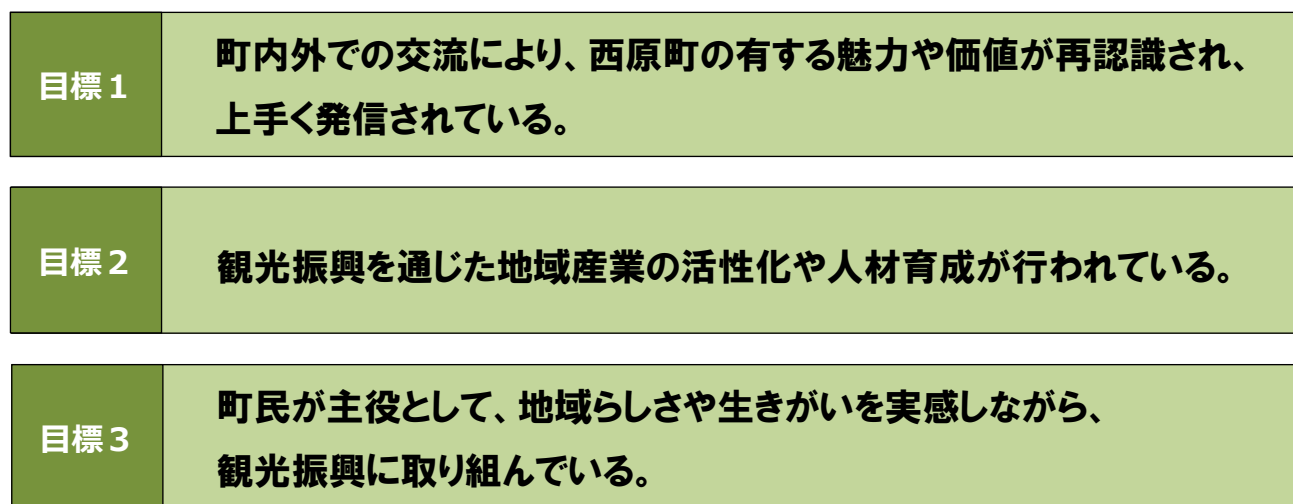


3 計画の基本的な考え方

町の将来像である「文教のまち」を基に、基本理念を定めました。



西原町が目指すべき将来像として、3つの「目標」を掲げました。



目標の達成に向けて着実に、取組を推進するために今後、以下のような考え方で数値目標の策定を行うこととします。

- ①地域ブランドの確立と魅力・価値の情報発信を通じた交流人口の増加
- ②観光振興を通じた地域産業や地元組織の活発化
- ③町民主役の取組を通じた西原町らしさの実感と町民満足度の向上

目標の達成に向けた5つの戦略と施策の方針を示します。

戦略	施策の方針	施策
<p>戦略1 文教のまちならではの交流促進と観光人材の育成</p>	<p>①多様な人々・文化との交流促進 ②観光関連の取組に向けた人材育成・組織化 ③観光客増加による災害時のリスクへの対応強化（避難誘導等）</p>	<p>施策 1-1 ~1-5</p>
<p>戦略2 歴史・文化の継承と文化遺産の保存・活用、沖縄戦の記憶の継承</p>	<p>①文化遺産の魅力発信と回遊性の向上 ②沖縄戦激戦の地としての平和関連の取組の充実 ③歴史・案内ガイドの連携体制構築・メニュー開発</p>	<p>施策 2-1 ~2-4</p>
<p>戦略3 マリンタウンの魅力を活かした交流拠点創出</p>	<p>①大型 MICE 施設整備と連携した開発 ②マリンタウンエリアと中心核商業系ゾーンとの連携 ③交流人口の増加に向けた新規事業者等の誘致 ④周辺地域との連携による魅力ある拠点の形成</p>	<p>施策 3-1 ~3-4</p>
<p>戦略4 農商工と観光が連携した地場産業の活性化と拠点形成</p>	<p>①農水産物流通・加工・観光拠点施設の有効活用 ②他業種に跨る町内事業者・団体の連携 ③ものづくりの町としての発展と魅力の向上</p>	<p>施策 4-1 ~4-3</p>
<p>戦略5 西原の魅力を高めるブランド発信・PRの推進</p>	<p>①地域ブランドの確立 ②「文教のまち」の先進的な取組のPR ③観光キャラクター「さわりん」の活用</p>	<p>施策 5-1 ~5-3</p>

※戦略1・2・5は計画期間の「前期」より既存の取組等を中心とした施策を実施し、戦略3・4は大型 MICE 施設や農水産物流通・加工・観光拠点施設の整備状況を踏まえながら、計画期間の「中期」より本格的な施策の深化・実施を図ります。

■ 施策の一覧

【凡例】 ■ ■ ■ : 準備段階 ■■■■■ : 推進段階

施策	実施時期			関係主体				
	前期 2018 ~2020	中期 2021 ~2023	後期 2024 ~2027	観光ま ちづく り組織 (仮)	行政	観光関 連団体 ・ 事業者	町民 ・ 町民 団体	教育 ・ 研究 機関
1-1 地域の特徴を生かしたイベント・交流の実施	■■■■■			●	●	●	●	
1-2 高校生や大学生等の知恵・人材の活用・育成及び海外交流の促進	■■■■■			●	●	●	●	●
1-3 大学との連携の強化に向けた取組	■■■■■			●	●	●		●
1-4 観光関連団体の組織化及び活動の促進	■ ■ ■	■■■■■		●	●	●	●	
1-5 観光危機管理体制の構築	■ ■ ■	■■■■■		●	●	●		●
								⇒計画策定等 へ展開
2-1 平和学習・交流の促進	■■■■■			●	●	●		●
2-2 歴史・観光ガイドの育成と回遊性の向上	■ ■ ■	■ ■ ■	■■■■■	●	●	●	●	
2-3 金丸関連の観光プログラムの開発	■ ■ ■	■■■■■		●	●	●		●
2-4 各世代に対応した歴史文化情報の充実	■■■■■			●	●	●	●	
3-1 マリントウンエリアのまちづくりと連動した観光客受入環境の整備	■ ■ ■	■■■■■		●	●	●		
3-2 マリントウンエリアと中心核商業系ゾーン(小那覇、嘉手苅、小橋川)の連携による誘客ルートの形成	■ ■ ■	■■■■■		●	●	●		
3-3 マリントウンエリア内における観光関連の企業や団体の誘致	■ ■ ■	■■■■■		●	●	●		
3-4 近隣自治体と連携した水辺の魅力を生かす環境整備・プログラムの開発	■ ■ ■	■■■■■		●	●	●		
4-1 農商工が主体の観光プログラムの開発	■ ■ ■	■■■■■		●	●	●		
4-2 民間と連携した拠点施設の活用方策の検討	■ ■ ■	■■■■■		●	●	●		
4-3 産学官が連携した高付加価値の特産品等の研究・開発	■■■■■			●	●	●	●	●
5-1 「学び」を軸とした西原ブランドの醸成	■■■■■			●	●	●	●	●
5-2 文教のまちづくりを牽引する取組(NS ² BP等)のPR	■■■■■			●	●	●		●
5-3 さわりんを活用した来訪場所としてのイメージUP	■■■■■			●	●	●	●	



4 施策の推進体制

観光まちづくり組織（仮）の設立とそれを中心とした

町民・観光関連団体・教育・研究機関・行政が一体となった体制の構築を目指します。



進捗管理

計画-Plan⇒実行-Do⇒確認-Check⇒
改善・見直し-Action といった一連の
PDCA マネジメントサイクルを用いて
効果的な取組を推進します。



広域連携

与那原町と連携した魅力ある水辺形成
東海岸地域サンライズ推進協議会
中城湾地域振興協議会

文教のまち 西原町の観光とまちづくり
西原町観光振興計画 2018-2027

2018（平成 30）年 3 月
西原町

（編集・協力：株式会社オリエンタルコンサルタンツ）



文教のまち西原